

「経年比較」について

授業改善推進プランでは、同一学年の「経年比較」を大切にしています。

中学校に入学した生徒たちの学力が、学年をあげるにしたがってどう推移したかを見ることで、改善の方策が妥当であるかどうかを判断するためです。

また、授業改善推進プランでは、「平均点」を経年比較するのではなく、「達成率（＝目標値を達成した生徒の割合）」を経年比較しています。

東京都教育委員会の「学力・学習状況調査結果分析」では、平均点ではなく、達成率の上昇が重要であるとされています。

熱心に学習に取り組む中学生が多くいる一方、学習に意欲を持ってない中学生も少なくないという、「二極分化」の傾向が課題となっているからです。

馬込中学校でも、学力の「二極分化」を起こさないよう、1人でも多くの生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、授業改善に努めます。

大田区では、経年比較のみ具体的な数値を記載します。（「昨年度から5%上昇している」など。）達成率や平均点自体は、文章表記となります。

○達成率：「非常に高い」「高い」「標準」「低い」「非常に低い」の5段階

○平均点（観点別）：「大きく上回っている」「上回っている」「標準」「下回っている」「大きく下回っている」の5段階



国語科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・意見文の発表をとおして、課題解決のための思考力、情報を精査するための判断力、考えを文章化しスピーチとして伝える表現力の育成に取り組むことができた。
- ・他者の考えを踏まえて自分の考えを練り直すことで、関心を高めたり視点を広げて考えたりすることができた。

(2) 課題

- ・漢字、文法、聞き取り問題の小テストを実施し、基礎知識の定着を図る。
- ・発表や話し合い活動を充実させ、円滑なコミュニケーションがとれるようにする。
- ・自らの生活と関連させて学習内容を捉え、考えや想像を深める力を身に付ける。
- ・各題材に応じた作文を継続し、的確な読み取りや適切な表現を定着させる。
- ・活動と評価を適切に結びつけ、学習意欲の向上、学習習慣の定着につなげる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	高い。		
第2学年	昨年度より4.9%下降したが、高い。	非常に高い。	
第3学年	昨年度より1.1%下降したが、高い。	昨年度から2.9%上昇している。	高い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
標準	大きく上回っている

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
上回っている	大きく上回っている

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
上回っている	上回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
漢字ノートを活用して、定期的に漢字テストを行う。小学校で習得した漢字を含め、繰り返し練習に取り組む。 読み・書き・意味をセットにして漢字の定着を図る。	事実と意見を読み分け、筆者の考えとその根拠を的確に捉え、読解力の向上を図る。 定期的に要約文や小作文に取り組み、正確に文章を書く力を養う。	考える手段・方法について手順を追って取り組んで学ぶ。話し合い活動等で伝え合う楽しさ味わわせ、前向きに学習に取り組む姿勢を養う。 自身の生活との関連を意識して取り組めるように、授業の展開を工夫する。

（２）第２学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各単元における復習と小テストを継続し、漢字の読み書きや文法など基礎知識の定着を図る。 歴史的仮名遣い等古文の基礎は音読や暗唱活動を行うことで身につける。	根拠に基づいて文章を解釈する力を養う。作文やスピーチ発表をとおして、相手に分かりやすく伝えたり読み取ったことと自分の考えを分けて書き表したりする学習を繰り返す。	学び得た技能を実践できる学習を増やし、授業内容と自身の生活を関連させて自分の考えをわかりやすく表現しようとする姿勢を養う。

（３）第３学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各単元における復習と小テストを継続する。文法については、既習事項の確認をしつつ、練習問題を多く設けることで知識の定着を図る。	他者との意見交換をとおして、主張・根拠をもつ機会を増やす。話し合いの活動後、作文に取り組み、自分の考えを整理して書く力を磨く。	クイズを行ったり資料の提示をしたり、ICTの効果的な活用場面を設けたりすることで、学習に対する生徒の興味関心を引き出せるようにする。

社会科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2年に地理的分野でレポート作成、発表などの活動を行ったことで、主体的に学習する態度の観点の数値が向上した。
- ・歴史において、資料を読み取る力とそれを表現する力を磨くことが必要であったので、授業内で積極的に資料提示を行い、生徒のイメージもたせることができた。

(2) 課題

- ・多面的・多角的に考察し、表現する力を養うために、ICTを活用したグループワークや発表の場を設け、課題解決の力を養っていく。
- ・世界の諸地域や日本のついでに産業、貿易について、図やグラフ・写真などの資料を使い読解力を養っていく。
- ・タブレットを活用し、授業の復習的な問題を授業当日に出題し解答させることにより、知識の定着を図る。特に2年生に関しては、出題回数を増やすことで正答率の向上を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	高い		
第2学年	標準 昨年度から9.0% 下降した	標準	
第3学年	標準 昨年度から8.4% 下降した。	標準 昨年度から15.6% %下降した。	標準

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
標準	標準

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
標準	標準

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
標準	標準

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・歴史・地理両方とも複数の資料を活用し、習得した知識と結びつけられるような問題を授業内で出題する。 ・語句の意味や位置の理解に課題が見られたので、家庭学習を通して定着を図る。 ・前時の復習テストを行い、知識の定着を図る。	・自分の意見の立場や根拠を明確に表現する活動を授業で取り入れる。 ・タブレットを活用し、生徒同士の考え方を共有することで、表現力の向上を図る。 ・定期考査の問題を活用し、思考力・判断力・表現直の定着を確実にしていく。	・主体的に学習に取り組む態度に違いが見られるので、ICT教材を活用しながら、生徒全員が興味をもてるように授業を展開する。 ・生徒が興味を持ちそうな身近な課題についてのレポート作成を通して主体的に学習に取り組む態度を育成する。

（２）第２学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・歴史・地理両方とも複数の資料を活用し、習得した知識と結びつけられるような問題を授業内で出題する。 ・語句の意味や位置の理解に課題が見られたので、家庭学習を通して定着を図る。 ・前時の復習テストを行い、知識の定着を図る。	・自分の意見の立場や根拠を明確に表現する活動を授業で取り入れる。 ・タブレットを活用し、生徒同士の考え方を共有することで、表現力の向上を図る。 ・定期考査の問題を活用し、思考力・判断力・表現直の定着を確実にしていく。	・主体的に学習に取り組む態度に違いが見られるので、ICT教材を活用しながら、生徒全員が興味をもてるように授業を展開する。 ・生徒が興味を持ちそうな身近な課題についてのレポート作成を通して主体的に学習に取り組む態度を育成する。

（３）第３学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・正しく語句を記入することに課題が見られたので、授業で正確な文字・漢字を書けているか確認することで定着を図る。 ・場所や位置に関する知識が不十分である生徒もいたので、地図帳やタブレットを使用して確実に定着させていく。 ・前時の復習テストを行い、知識の定着を図る。	・知識を語句として捉えることが多く、文章として表現することに課題が見られたので、グループでの話し合い活動等を取り入れ、他人の考えから、自分の考えを適切に文章化できるようにする。 ・タブレットを活用し、生徒同士の考え方を共有することで、表現力の向上を図る。	・主体的に学習に取り組む態度に違いが見られるので、ICT教材を活用しながら、生徒全員が興味をもてるように授業を展開する。 ・生徒が興味を持ちそうな身近な課題についてのレポート作成を通して主体的に学習に取り組む態度を育成する。

数学科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・3年生では、領域を横断した複合問題に多く取り組ませることにより、既習事項を活用する力を向上させることができた。
- ・2年生では、演習問題に多く取り組ませることで、基礎的・基本的な計算を定着させることができた。

(2) 課題

- ・第1学年は「比と比例・反比例」「平面図形」「平均・場合の数」に課題がある。
- ・第2学年は比例・反比例やデータの活用の記述問題に課題がある。
- ・第3学年は証明の記述問題に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	高い。		
第2学年	非常に高い。昨年度から11.8%上昇した。	高い。	
第3学年	非常に高い。昨年度から2.5%上昇した。	非常に高い。昨年度から4.8%上昇した。	高い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
上回っている	大きく上回っている

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
大きく上回っている	上回っている

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
大きく上回っている	大きく上回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
途中式、図形、表、グラフなどを具体的にノートに書かせるという指導を通して、問題のポイントや図形の特徴の把握などの力を伸ばせるよう指導をさらに工夫していく。基礎・基本的な知識の定着を図るための問題を数多く用意し、演習を通じて自信をつけさせていく。	より多くの課題に取り組みせ、問題解決の楽しさを味わえるようにする。さらに、実体験に基づく規則性や法則性について考察するよう指導を工夫する。また、自分の考えについて説明し発表する問題を継続する。また、授業開始時のウォーミングアップとして、既習事項の復習問題や発展問題にも取り組みせ、思考力・表現力を育てている。	「授業振り返りシート」を活用し、毎授業ごとに生徒自身がその1時間の授業の中でどのようなことを学んだのかを振り返る時間を設定している。授業の振り返りを行うことにより、そこで生まれた疑問点や復習すべきだと思った内容について主体的に学習する生徒が増えてきている。

（２）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本的な問題だけでなく、問題集などを活用し、発展的な問題にも多く取り組むことで、様々な問題にタイ応できるよう指導する。また、演習問題では記述にも多く取り組ませることにより、深い知識の定着を図る。	ICTを活用して問題の理解を深めさせ、自力解決の時間を多くとることにより、生徒が自分自身で考える時間を増やし、思考力を高めさせる。また自分自身で考えたことを記述し、他者に説明させる場面をつくり、表現力も高める。	単元が終わるごとに、その単元の要点やポイントをレポートにまとめさせている。教科書の内容だけでなく、自分がポイントである箇所を把握することで、より深い学びにつなげることができると考える。また、単元テストや定期考査の解き直し、振り返りレポートも指導し、自己を調整する力を身につけさせている。

（３）第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
教科書に載っている基礎・基本的な問題だけでなく、問題集を活用し、演習問題に多く取り組ませることにより、知識の定着を図る。特に、計算問題については、途中式を常に書くよう指導し、どこで間違えてしまったのか見返すよう指導している。	問題提示の際に、ICTを活用して問題の理解を深めさせ、自力解決の時間を多くとることにより、生徒が自分自身で考える時間を増やし、思考力を高めさせる。また、生徒同士での比較検討の時間を取り入れることで、数学的な表現を使って、他者に説明する場面をつくり、表現力を高める。	毎授業で「振り返り」の時間をとり、本時で何を学んだのかを振り返る時間を設定している。授業の振り返りを行うことにより、そこで生まれた疑問点や復習すべきだと思った内容について主体的に学習する生徒が増えてきている。

理科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第3学年は問題演習や小テスト等を繰り返し行うことで、達成率に一定の改善が見られた。
- ・第2学年は実験・観察の取り組みを多く取り入れたことで、実験装置の基本操作を定着させることができた。

(2) 課題

- ・第3学年は達成率に改善は見られたが、基礎知識を確実に定着させることが課題である。
- ・第2学年は達成率の低下が著しく、特に「知識・技能」の観点で目標値を下回る結果となっており、基礎知識の定着不足が課題である。
- ・第1学年は「思考・判断・表現」の観点は達成しているが、「知識・技能」の観点は下回っており、改善が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	高い		
第2学年	標準 昨年度より 25.7%下降。	高い	
第3学年	高い 昨年度より 12.1%上昇。	標準 昨年度より 16.0%下降	高い

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
標準	標準

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
目標値より下回っている	標準

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
標準	目標値より上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・単元末や分野末に振り返りや問題演習を実施し、基礎的な知識の定着を図る。 ・実験や観察・実習を多く実施し、基本操作の定着を図る。	・実験や観察などで得られた結果から、「この現象はなぜ起きるのか」などを調べたり考えたりし、書く動作を多く取り入れる。	・実験や観察・実習を多く実施することで生徒の興味関心を引き、自ら探求してみるように提示する。

（２）第２学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・基礎用語、法則、実験手順など、単元の内容の反復を重視し、単元ごとに小テストを実施する。 ・観察記録や実験データを正しく読み取り、知識と結びつけて整理する習慣をつける。	・「なぜそうなるのか」を考えさせる問いを多く設定し、実験結果から規則性を見出す活動の強化を図る。 ・簡潔に理由を表現する指導を繰り返し、ワークシートのまとめや発表活動に取り組む。	・実験や観察に「自分の予想」をもたせてから取り組ませる。 ・成果を共有し合う場を増やし、学習意欲と関心を高める。

（３）第３学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・基礎知識の定着を図るため、単元ごとに小テストを実施する。 ・学習内容を体系的に整理し直す場を設け、入試問題や既習事項と関連付ける。	・科学的な思考をさらに伸ばすため、グラフやモデルを用いて、自然の事物現象を論理的に説明する活動を充実させる。	・学習到達度を自己評価させ、弱点補強の学習計画を自ら立てる習慣をつける。 ・学習内容を生活事象や社会課題に結びつけて考える活動を導入し、学習の意義を実感させる。

英語科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各単元で背景知識を学習することで、題材に興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むことができた。
- ・ペアやグループなどの対話的活動を多く取り入れることで、自分の考えを整理し、論理的に表現する力を養うことができた。
- ・単語テストや単元テストを細かく実施し、基礎学力を定着することができた。

(2) 課題

- ・実践的な英語能力を養うために、ALT と会話する機会を多く設ける。
- ・思考力や表現力向上のために、英語でのスピーチやスライドを用いたプレゼンテーションを行う際、場面や相手を明確に設定する。
- ・読解力を養うため、概要から精読へと理解を進めていけるように発問を工夫する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	非常に高い		
第2学年	昨年度より11.7%下降したが、非常に高い。	非常に高い	
第3学年	昨年度より9.1%下降したが、非常に高い。	昨年度より8.8%下降したが、非常に高い。	非常に高い

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
大きく上回っている	上回っている

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
大きく上回っている	大きく上回っている

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力
大きく上回っている	大きく上回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
単語の定着を図るため、定期的に単語テストを実施する。 文法事項は、既習事項と絡めながら学習を進め、練習問題を通して、基礎的な知識の定着を図る。 音の連結や強弱、発音について正しい知識を身につけるために、教科書本文を活用した音読テストを実施する。	「すらすら英会話」を活用して、ペアの１分間の会話を通して、表現力を向上していく。定型文を何度も練習し、そこから自分の話したい内容に少しずつ変えていきながら、自己表現へとつなげていく。 本文導入の際、教科書の挿絵を見て内容を推測し、既習の表現を用いてペアに説明を行う活動を実施し、表現力を高める。	生徒の興味関心のある題材を設定し、英語が話せること、英語で表現できることが楽しいと思える活動を工夫していく。 積極的に英語でコミュニケーションを図り、楽しむことができるよう、ALT との一対一のインタビューやクラスメイトとの英語での会話を多く行う。

（２）第２学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
既習の単語や文法事項について、定着できるよう単語テスト、単元テストや音読のテストを効果的に行う。ペーパーテスト前には、テストのポイントや注意点を確認する。音読については、ALT に協力してもらい、口の動きや同じ音の単語を紹介してもらうなどわかりやすく発音の技能を習得できるようにする。 会話活動などで話したことを書かせる活動を行い、Fluency と Accuracy の両方の向上を目指す。	授業の最初に行うペアでの言語活動を通して、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。ペアでの言語活動では、テーマは自分のことから創造的なことなど様々なテーマにすることで、表現力を伸ばしていく。 授業の初めや行事後の書く活動では、クラスに向けてのメッセージや English Haiku を書く。書いたらクラスメイトでシェアをし、読む活動につなげていく。	授業では、英語という外国語を学ぶ上で大切な心理的な安全性を確保していく。「安心して、外国語を学べる環境」から、主体的に学ぶ生徒がうまれる。 英語を聞く、読む、話す、書くうえで大切な態度や姿勢をその都度、指導している。英語学習へのモチベーションが上がるように、Authentic な教材を可能な限り取り扱うようにしている。今、学習していることが世界とつながるまたはつながっていると思わせることで、主体的に取り組む生徒を育成していく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
受容語彙と発信語彙を伝え、発信語彙に関してはスペルまで書けるように繰り返し指導を行う。 文法事項は、文法ドリルを帯活動で行い、基本文の形を定着させている。また、何度も同じような問題に触れさせ、活用の仕方を理解できるようにしている。	「1分間チャット」を通して、自分の意見を即興で応答する練習をしている。また、各単元に関するトピックで自分の意見を英語で表現する活動を行い、発信力の向上を図っている。長文読解では、100語程度の英文を読みとる活動を毎時間行い、長文の概要を即時に読みとる力を養っていく。	A L Tと一対一で英会話する機会を授業内で多く取り入れ、コミュニケーションに対する意欲の育成を図っている。また、単元ごとに、既習の表現を使って自分の意見を書き、発表することで、実践的コミュニケーション能力の育成を図り、意欲的に学習する力を育てている。

音楽科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・授業内容と目標の明確化やワークシートや視聴覚機器の活用により授業に対する関心・意欲・態度が良好である。

(2) 課題

- ・鑑賞については、音楽を形づくっている要素ごとに知覚することが課題である。
- ・歌唱表現の技能については、発声を
- ・表現の創意工夫については、より豊かな表現力を自分たちで見つけ出すことが課題である。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声など基本となる力が身につけていない。 強弱・フレーズなどの表現方法は知識として理解できている。	強弱・フレーズなどの表現方法は知識として理解しているが、演奏として表現するには十分ではない。	発言がよく見られ、主体的に取り組んでいる。 毎時の授業でできたことを振り返り、次回に生かそうとできている生徒もいれば、感想のみで終わってしまう生徒もいる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声など基本となる力が大半の生徒は身につけている。 強弱・フレーズなどの表現方法は知識として理解できおり、それを表現する技能もある。	強弱・フレーズなどの表現は意識するように促せば演奏に落とし込めるが、自分から思考し表現する力は十分ではない。	発言がよく見られ、主体的に取り組んでいる。 毎時の授業でできたことを振り返り、次回に生かそうとできている生徒もいれば、感想のみで終わってしまう生徒もいる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声など基本となる力が身につけている。 強弱・フレーズなどの表現方法は知識として理解できおり、それを表現する技能もある。	強弱・フレーズなどの表現は意識するように促せば演奏に落とし込めるが、自分から思考し表現する力は十分ではない。	発声が大きく、生き生きと歌唱をしている。 毎時の授業でできたことを振り返り、次回に生かそうとしている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
興味深くできる基礎発声を毎授業で繰り返し練習し、基礎・基本の習得を図る。	豊かな表現ができるよう、大げさに表現するように毎時間意識づける。	振り返りシートを毎時間確認し、一人一人にあった適切なアドバイスをする。生徒の成長をほめて伸ばし、意欲につなげる。

（２）第２学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声などをお互い教えあいながら毎授業で繰り返し練習をし、生徒全員での基礎・基本の習得を図る。	生徒自身に考えさせる時間を取る。教師は考える手立てを与える。	振り返りシートを毎時間確認し、一人一人にあった適切なアドバイスをする。生徒の成長をほめて伸ばし、意欲につなげる。

（３）第３学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声などをお互い教えあいながら毎授業で繰り返し練習をし、生徒全員での更なる基礎・基本の習得を図る。	生徒自身に考えさせる時間を取る。教師は考える手立てを与える。	振り返りシートを毎時間確認し、一人一人にあった適切なアドバイスをする。振り返りでは、自分自身のことだけではなく、パートの演奏についても振り返りをするよう促し、全体の底上げにつなげる。生徒の成長をほめて伸ばし、意欲につなげる。

美術科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各課題へ意欲的に取り組み、美術への関心も高くなった。
- ・技能を身に着け、よりよく制作しようという積極性がある。

(2) 課題

- ・各自が目標に到達できるよう根気よく導く。
- ・意欲、自信が持てない生徒へ根気よく指導する。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
個人差はみられるが、基礎的な理解力がみられる。	自ら思考、判断、表現しようという力が見られる生徒が多い	課題を理解し、意欲的に取り組むことができる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識、技能が身についている生徒が多く、創作活動の中で実行できている。	自ら思考、判断、表現できる生徒が多いが、不得意生徒への指導が必要。	課題を理解し、意欲的に取り組むことができる。 表現活動に不得意と感じている生徒もいる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識、技能を身につけ、創作活動の中で実行できている。	思考、判断、表現の得意な生徒が多いが、不得意生徒の指導が必要。	全体的に、意欲的に熱心に取り組んでいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識、技能を身につけ、理解しているが、追いつけていない生徒への丁寧な指導、導きを行う。	発想、表現を楽しんで取り組める生徒が多いので、さらに達成する喜びを味合わせるよう導いていく。	意欲的に取り組み、熱心に創作活動できる。さらに、美術を愛好する心を育てていく。

（２）第２学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識、技能を理解し、身につけている生徒が多い。さらに出来る喜びを味合わせていく。	すすんで思考、発想、表現しようとする生徒が多い。さらに楽しみながら表現活動できるように導いていく。	意欲的に取り組み、熱心に創作活動できるが、集中力が定着しない生徒へも粘り強く導いていく。

（３）第３学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
知識、技能を生かして創作活動できるようになった。さらに、知ること、出来ることを楽しめるように導いていく。	思考、判断、表現活動が得意な生徒が多い中で、不得意な生徒もみられる。根気よく、達成する喜びを味合わせていく。	熱心に取り組める生徒が多い。個々の生徒を性質をよく見て、丁寧に導いていく。

保健体育科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・個々の体力の向上を目指し、学年毎に段階的にトレーニング量を増やした。その結果、徐々に体力の向上が見られ、トレーニングを正しいフォームで、規定回数まで行うことができるようになる生徒が増えた。
- ・水泳やマット運動などにおいて、個々の習熟度に合わせたコースや技を設定することで、生徒が主体的に取り組むことができた。
- ・ダンスやマット運動などにおいて、クロームブックを使用し、グループ内のダンスの動き方や技の出来栄を確認することで、グループや自己の課題が明確になった。

(2) 課題

- ・個々の体力をより向上させるために、実施する運動を精査する。
- ・生徒の得意・不得意に関わらず、意欲的に取り組めるよう授業展開を工夫する。
- ・生徒が主体的に課題解決を行うためのグループワークを増やす。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方について、意欲的に理解しようと努めている生徒が多い。基本的な体力や技能には差がある。また、授業内でのルールや約束事を守る意識を高め、安全な行い方について学習している。	自己課題を発見し、その解決に向けて自己や仲間の考えをワークシートに記入したり、グループワークで他者に伝えたりする学習をしている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、他者を認め合う態度を養い、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている生徒が多い。また、運動に対して苦手意識をもつ生徒がいる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意方法について学習しているが、定期考査の結果を見ると定着は不十分なところがある。また、各運動の特性に応じた基本的な体力や技能に差が見られる。	自己課題を発見することはできている。合理的な解決に向けて、課題に応じた運動を工夫することは難しい。自己や仲間の考えたことを他者に伝える学習として、グループワークやワークシートの活用をしている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている生徒が多い。また、運動に対して苦手意識をもつ生徒がいる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の技の名称や行い方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての方法や、スポーツの意義についての考え方については一定の理解が定期考査の結果から見られる。運動の基本的な技能はある程度身に付いている。応用や体力の高め方については課題がある生徒がいる。	生涯にわたって運動を豊かに実践するために自己や仲間の課題を発見することができている。合理的な課題解決に向け、課題に応じた運動の取り組み方を考え、目的に応じて運動を工夫して取り組んでいる。グループワークやワークシートを活用しながら自己や仲間の考えたことを他者に伝えることのできる生徒が増えた。	仲間と協力しながら、運動の楽しさや喜びを味わおうと意欲的に取り組むことができる。また、苦手意識のある生徒がいる中、公正、責任、共生などを養い、健康・安全に留意しながら、学習に積極的に取り組む生徒は多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ちや技の名称、行い方については、授業内でポイントを明確にする。ワークシートの活用でより定着を目指す。技能の個人差については、個々の能力を把握する場面を設定し、自分に合った練習方法を選択できるよう促す。また、授業内でのルールや約束事を守る意識を高め、安全に留意する。	グループワークを増やしたり、考えを他者に伝えるためのポイントを提示したりする。自己や仲間の課題の発見や、その解決の方法を意欲的に検討できるようにする。そのことをワークシートの記入に反映できるようにする。	生徒が主体的に運動に取り組むことができるよう、練習方法やゲームのルールの工夫をしたり、グループワークの場面を設定したりする。個人の能力差にも配慮しながら安全に留意して学習できるよう扱う用具を柔らかい物に変更するなどする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や技の名称、行い方、健康・安全の留意点については、授業内で目標や技のポイントを明示したり、教え合い活動をしたりすることで理解を促すとともに、ワークシートの活用で定着を図る。また、グループワークで仲間と協力し	技や動きのポイントを明確にしたり、グループワークで互いに評価したり教え合ったりすることで自己課題をより発見しやすくする。また、その課題の合理的な解決のために、能力に応じた練習方法の提示や話し合い活動も取り入れる。	生徒が主体的に運動や練習に取り組むことができるよう、段階的に目標設定をしたり、練習を選択したりできるようにする。他者を認め合い、協力して取り組めるような環境を設定する。

たり、能力に応じた目標や練習法を設定したりするなど、技能を高める機会を確保する。		
--	--	--

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
自己の体力や技能を理解し、主体的に運動を選択できる力を育む。また、応用的な運動や体力の高め方については、ICTやワークシートの活用で考える機会を設定し、取り組むことができるように促す。	グループワークやワークシートの活用を継続しながら、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。自己の課題発見や解決に向けた運動の取り組み方を検討、実践できる場面を提供する。	仲間と協力しながら主体的に活動し、公正、責任、共生などを養うことで普段の生活でも生かすことができる。また、健康・安全に留意しながら、自分たちで積極的に活動内容を検討する力を育む。

技術・家庭科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技術・家庭科への興味関心をもちながら、意欲的に活動することができている。
- ・生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、課題に取り組むことができている。
- ・適切な道具の使い方や安全への配慮等ができるようになってきた。

(2) 課題

- ・学んだことと生活とを関連させながら、自分の考えを表現することの定着を図る。
- ・社会の中での課題と学習したことを関連できるよう、自分の考えを表現したり、友達の考えから新たな考えを生み出したりする力を育てていく。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
生活と技術について理解が深まるよう、身近なことなどに関連させながら知識の定着を図ったり、技能が身につくよう繰り返し取り組めるようにしたりする。	学習した知識や技能を生活の中に活かせるよう、グループでの話し合いの場を設け、ここが自分の考えを構築し、発信できるようにする。 出来上がった作品をどのように使うと豊かな生活ができるか考える場面を設ける。	見通しをもちながら、計画的に作品作りなどができるようにしていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着が十分ではないので、適切な道具の使い方や周囲への配慮ができるよう、道具や材料の特性を理解しながら作業できるようにしていく。	学んだことを生かして自分の考えを表現することが苦手であるので、グループでの話し合いの場を設け、個々が自分の考えを構築し、発信できるようにする。	教科に対する関心は高いが、授業への取り組み方や姿勢で課題が見られるので、世の中の問題や課題と関連させ、自分事として捉えられるようにしていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着が十分ではないので、適切な道具の使い方や周囲への配慮ができるよう、道具や材料の特性を理解しながら作業できるようにしていく。	学んだことを生かして自分の考えを表現することが苦手であるので、グループでの話し合いの場を設け、友達の意見を参考にしたり、比較したりしながら、自分の考えを再構築し、発信できるようにする。	教科に対する関心は高いが、授業への取り組み方や姿勢で課題が見られるので、世の中の問題や課題と学習したことを関連できるよう、自分事として捉えられるようにする。

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会の中から問題を見出して課題を設定して解決する力を身につけさせる。	課題学習や体験学習を多くし、問題を魁夷結する力を身につけさせる。	授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。

（２）第２学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
機器や機材を効果的に活用する。とくに基礎的・基本的な内容を重視し、丁寧に重点事項を説明する。適切な難易度の課題を導入し、より高い技術の習得を目指す。	活発に表現する姿勢はさらに伸ばす指導を行う。自らの意見をまとめ、記述や発表などで表現する機会を多く取り入れる。	授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。

（３）第３学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
機器や教材を効果的に活用する。とくに基礎的・基本的な内容を重視し、丁寧に重点項目を説明する。安全への意識を重点的に指導し、道具の特性を理解しつつ安全に使用する力を養う。	活発に表現する姿勢はさらに伸ばす指導を行う。学んだことを活用する機会を積極的に作り、制約条件がある表現活動を多く取り入れる。	授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。